

# 1章

## 若手公務員が語る「やりがい」

公務員といつても様々な職種や勤務先があるが、この章では中央官庁や地方自治体で行政職員として活躍しているフレッシュな公務員の方々に、公務員になった経緯や仕事内容、おもしろさ、つらさなどを自由に語っていただいた。

公務員として働くとはどういうことなのかを、このインタビューから感じ取ってほしい。

環境省

関東地方環境事務所 南アルプス自然保護官事務所 自然保護官

### 自然保護に直接関わるのは公務員。 環境問題の最前線で働けるのが嬉しい

取材・文／いのうえりえ

撮影／渡邊力

#### 公務員になつた経緯

学部へ転学。農業経済を勉強していたのですが、直接環境に関わりたいと思い、大学院ではランドスケープの観点から農村の環境保全を考える研究に取り組みました。

小さい頃に山登りへ両親が連れていくてくれたせいか、山の自然、山あいの農村風景が好きなんです。高校時代、文理選択で迷い、文系に進学したものの、やはり将来は自然に触れる仕事がいいと思うようになり、農

#### 駆け出しの頃の思い出

最初の所属は本省の自然環境計画課。

学生時代、尾瀬や立山で高山植物保護バッソールやサブレンジャーの仕事をしたことから、自然溢れる場所で働きたい気持ちが高まり、いろいろ調べたら行政

世界自然遺産の管理、自然再生、野生生物の保護などさまざまな業務を統括する部署で、入省したての私は窓口担当。他省、省内局からの問合せ業務や、国会期間中は国会対応業務を手伝いました。

印象深いのは、源流の再生に関する事業プロジェクト。上司が白紙の状態から企画を立ち上げ、専門家やNGO、地域の人々を巻き込んで、源流再生の視点からどのように自然を再生すべきか検討し始めたんです。正直、役所の仕事は書類内容を確認したり、ある程度型の決まつたルーティンの仕事というイメージがあつたのですが、こんなふうにまったく白紙の状態から自分たちで考え、具体的に形にしていく仕事もあるのだと驚きました。公務員つていろんなことができるのだとわかり、俄然やる気が芽生えた瞬間でした。

## 現在の仕事内容

08年10月より、開所したばかりの南アルプス自然保護官事務所に勤務しています。全国各地にある国立公園にはその風景や野生動植物の生息・生育環境を保護するため、各種規制が設けられていますが、それらが守られているかどうかや公園内の状況を把握するために巡回したり、許認可申請審査などを行うのが仕事です。また、南アルプス国立公園では、指定区域や保護と利用のあり方の見直しを自治体や地元の関

係者と相談しながら検討していくという課題があります。  
高山植物や野生動物の保護も大事な業務。南アルプスにしか咲かないキタダケソウという絶滅の危機にある高山植物の自生地保護を行ったり、シカの食害も深刻化しているため、関係機関や地元自治体、ボランティアの方々と防鹿柵を設置、対策を講じているところです。

### 公務員のおもしろさ・つらさ

2年目、那覇自然環境事務所にいたときのこと。沖縄島北部のやんばるの森にヤンバルクイナという絶滅の危機にある飛べない鳥が生息しているのですが、このヤンバルクイナが道路に飛び出て車に轢かれる事故が起き、問題になっていました。絶滅寸前の鳥を救うためには車のスピードが出ないよう道路に凹凸をつけるなどの対策が考えられますが、地元の人にとっては大切な生活道路。他の行政や関係者の意見も聞きながら環境省としてどこまで配慮すべきか、どんな保護方法があるのか、どうすべきなのかを考えました。国の機関として行う以上、失敗が許されず、確実なところを選択しなければならない。慎重に調整する必要があるため、継続して後任者が取り組んでいます。

### 目指す人たちへのアドバイス

安定志向で選ぶとつらいですが、反対に明確な目標があれば、絶対おもしろいです。決められたことをこなすのではなく、建設的に問題を解決したり、新しい何かを生み出していく仕事ですから。私自身もまだまだこれから。今はまず南アルプス国立公園についてどんな保護と利用のしかたが最善なのかをしっかりとと考え、徐々に形にしていきたいと思っています。

す。実際、こうした局面は沖縄に限らず、様々な場所であります。ある課題にどう対処すればいいかを考えたり、問題を拾い出し、対策を考えていく。異なる立場の様々な意見を調整した上で決めていくのは本当に大変。でも、それだけにやりがいがあります。

また、公務員の場合、異動が多くて仕事も本当に多岐に渡りますが、それも魅力。本省にいれば、国を動かすような大きな方針決定に携わることができるし、自然保護官として地方にいるときは大好きな自然に囲まれて仕事ができる。様々な仕事を経験すればそれらがすべて自分の蓄積になり、新たなものとの見方につながっていく。正直、異動がつらい時期もあったのですが、今はいろんな経験が積めるチャンスと受けとめています。

# 中央官庁での貴重な経験を生かし 地方から国政を変える原動力になりたい

取材・文／荒尾貴正(本誌編集デスク)

撮影／中岡邦夫

## 公務員になつた経緯

「飛行機を造りたい」という思いで大学に入つたものの、実際に授業を受けてみるとあまり興味をそそられませんでした。かといってほかに熱中することもなく、大学生活の前半はのんきなものでした。

変わったのは3年の夏です。沖縄へ旅行に行き、美しい自然にとても感動しました。反面、その自然が米軍基地問題などにより失われていくかもしれないことにショックを受けました。以来新聞やニュースを真剣に見るようになり、社会には様々な問題があることを知り、マスコミの仕事に興味を持つようになりました。けれども、少々の知識や中途半端な志望動機ではマスコミは通りません。思い切って大学を1年休学し、自分の将来

をじっくりと考え直すことにしたのです。

その間に「議員インターナシップ」というものに出会いました。マスコミに進むのであれば、社会からの批判的目的である議員の仕事ぶりを見ておくことは貴重な経験になるだろうと考えました。しかし、実際に参加してみて、議員に対する印象はガラリと変わりました。社会の問題を自分のことのように受け止め、プライベートを削つてまで

所懸命仕事をされている議員の方々に非常に好感を持ったのです。一方で、公務員には反感を覚えました。議員に対して「まあまあ先生、そうおっしゃいましても…」というような接し方で、真摯に仕事をしているよう見えない公務員が多かつたのです。

そこで私の考えは変わりました。世の中を良くしようと思うならマスコミではなく、議員でもなく、公務員になるべきだと。

## 駆け出しの頃の思い出

公務員試験は、運良く国家I種と地方上級ともに合格しましたが、私は国家公務員ではなく地方公務員を選びました。産業がふるわず若者が流出し、衰退していく一方の地元高知の現状を見て、ここで頑張りました。中でも一番思い出に残っているのは、高齢者の方々にお祝いの品をお渡しする仕事でした。中でも一番思い出に残っているのは、高齢者の方々にお祝いの品をお渡しする仕事です。たとえば百歳を超えるような長寿の方には、国や市から表彰状が贈られます。総理大臣や市長の代理として私がお持ちするのですが、伺うと皆さんがすごく喜んでくださいます。「内閣総理大臣 小泉純一

行政を行う人間が変わらなければ、この国は変わらない。ならばそれになろう——。偉い男に決心したのです。

行政を行なう人間が変わらなければ、この国は変わらない。ならばそれになろう——。偉い男に決心したのです。

## お年寄りとの心温まる交流

次に障害者や高齢者の福祉を担当する部署に移りました。障害者サービスの申請を受付けたり、高齢者のための生きがい講座を企画したり、高齢者福祉施設の整備計画を作成したりと、窓口サービスから企画立案まで幅広く仕事をさせてもらいました。た。中でも一番思い出に残っているのは、高齢者の方々にお祝いの品をお渡しする仕事です。たとえば百歳を超えるような長寿の方には、国や市から表彰状が贈られます。総理大臣や市長の代理として私がお持ちするのですが、伺うと皆さんがすごく喜んでくださいます。「内閣総理大臣 小泉純一

「郎代読」などと読み上げ、たまに調子に乗つて「感動した！」なんて言いつつお渡しするのですが（笑）、「本人も」「家族も周囲の人々も」喜ばれる。中には感動して涙を流される人もいる。そうした現場に立ち会えて、とてもうれしかったですね。

### 現在の仕事内容

昨年の4月から経済産業省に出向しています。噂には聞いていましたが、経済産業省というのは本当に忙しいところで、高知での年間残業時間にはんの数日で達してしまつて走り続けてきました。昨年はとりわけ仕事が多く、委託事業を10本行ったり、イベントや有識者委員会を何度も開催したり、合間に新聞や雑誌へのコラムを書きつつ、各地で講演もしたりと、寝る間を惜しんで仕事をしました。つらい時期もありましたが、そもそも国政にも教育にも関心があつたし、社会人基礎力の考え方にも非常に共感できるところがあつたので、何とか乗り切れたのかなと思っています。

### 公務員のおもしろさ・つらさ

公務員の仕事とは、国は、あるいは高知はこうあるべきだという思いから政策を考え、発表し、推進する仕事ですが、そんな我々に共感してくださる方々に出会えた時は大きなやりがいを感じますね。

例えば昨年度、多くの大学生や先生方が社会人基礎力事業の意義に共感し、難しい

たくらい多忙な職場です。

その中で、私は社会人基礎力プロジェクトを担当しています。社会人基礎力とは「前踏み出す力」「考え方」「チームで働く力」といった職場や地域社会で必要とする力で、経済産業省はこの力を定義し、産業界や教育界に普及させる努力をしています。私は着任以来、この事業の推進役として走り続けてきました。昨年はとりわけ仕事が多く、委託事業を10本行ったり、イベントや有識者委員会を何度も開催したり、合間に新聞や雑誌へのコラムを書きつつ、各地で講演もしたりと、寝る間を惜しんで仕事をしました。つらい時期もありましたが、そもそも国政にも教育にも関心があつたし、社会人基礎力の考え方にも非常に共感できるところがあつたので、何とか乗り切れたのかなと思っています。

### 目指す人たちへのアドバイス

どんな道を目指すにしても、ぜひ事前に現場を見てほしいですね。ネットから得られる情報も多くなっていますが、体感するのとしないのとではまるで違います。私は大学3年でインターンシップに行きましたが、できたら1、2年から行ってほしい。社会人と触れ合いの中で自分の弱点に気付ければ、就職活動までに克服することもできるでしょう。

課題に果敢に挑んでくださいました。その姿が「社会人基礎力育成グランプリ」というイベントで伝えられると大きな感動を呼び、涙ぐんで聞き入る聴衆もいました。それを見て私自身も感動し、我々と同じ考えを持つ取り組んでくださる方々、見てくださる方々がこんなにもたくさんいるのかと、言いようのない喜びに包まれました。

しかし一方で、中央省庁の中に入つてみて、国の繰り出す政策のすべてがすばらしいわけではないことも改めて感じました。地元に復帰したらこの経験を生かし、厳しい目で国政を見ながらも、地方行政の成功事例をたくさん生み出し、地方から国政を変えていくようなムーブメントをつくりたいと考えています。

# 観光推進、医療整備、自治体の行財政運営など 様々な社会貢献ができるのが魅力

取材・文／いのうえりえ

撮影／中岡邦夫

## 公務員になつた経緯

公務員を意識したのは大学3年の頃。どんな職業に就きたいかと真剣に考えたとき、ふと浮かんだのが生まれ育った地域のことでした。僕自身、自然豊かな場所で教育環境にも恵まれ、何不自由なくここまで成長きました。だったら今度は僕を育ててくれた地域を良くしたい、より良い環境づくりがしたいと思ったんです。で、それを仕事にするには公務員しかないかな、と。国家公務員だと所管分野が限定されてしまうし、市町村よりは広域行政に関わりたいと思つたので、岐阜県職員を選びました。

卒論では「観光」をテーマに、観光による地域活性化策、地域への経済波及効果をまとめ

ました。大学4年の夏には県職員のインナーシップ制度に申し込み、観光交流課(当時、交流産業室)で職務体験もしました。こうした経験も「県職員になるんだ」という思いを後押ししてくれました。実は岐阜県以外の自治体、民間企業をつも受けていないんです。今、考えるとかなり無謀でした(笑)。

## 駆け出しの頃の思い出

入庁してすぐに配属されたのは観光交流課。とにかく忙しかったです。なぜかというと昼間は県民や観光客の方々からの電話対応に追われるからです。多い日では1日30件近くの問合わせを受けることもあります。でも、その二つひとつに応えるのが行政サービスなんだと思い、できる限りきめ細かく対応するよう心がけました。当時は、土

日祝日を利用して県内の観光地をよくまわりましたよ。道を覚えたかったのと、自分で確かめ理解した上で、生の情報を提供したいと思ったからです。

何よりお客様と話すのは勉強になります。僕ら職員とは違った視点からの意見が聞けるし、県側がウリにしている観光資源とは違う魅力を教えてくれたりするからです。なので、たとえ書類作成や関係部署との調整業務などが夕方以降の作業になってしまったとしても、電話対応や観光イベントのお手伝いなど、人と接する機会を優先し、大事にしていました。

## 僕の給料は税金でできている

医師・看護師の確保対策など、県民が安心して受診できる医療環境づくりを行っています。そこで僕が担当しているのは予算を執行する業務。医療機関や団体、企業、講師などへの委託料、補助金、報酬など、医療整備に関わる事業を進めるのに必要なところの経費を支払う仕事です。そのほか広報業務や県内4カ所の看護学校と3カ所の県立病院の施設管理も担当しています。

公務員になり、初めて給料をもらつたとき、「これは税金の生まれ変わりなんだ」と思いました。というのも、毎月の給与だけでなく自治体の運営経費は、税金で成り立つ

現在、所属する健康福祉部医療整備課では、病院・診療所などの施設設備の整備、

とになるからです。よって、無駄な支出がつてはいけないため、毎年秋から冬に翌年度の予算編成作業があるのですが、年度途中でも使途や必要額に変更が生じた際は、補正作業や財政協議をその都度行います。他の自治体同様、岐阜県も財政状況は厳しい。それだけに予算を実際に執行するときは適正な支払いかどうか、ミスや遅れはないか、細心の注意を払っています。

### 公務員のおもしろさ・つらさ

異動のたびに新しい部署の仕事を一から飛騨振興局でのこと。ここは飛騨圏域内にある4つの市村の行財政運営に関する業務を行なう部署。地方行財政に関する法律改正や改革が進んでいく中で、財源確保をどうするか、行政運営を円滑に行なうにはどのようにするのが得策かを考え、市役所、村役場へ助言・指導を行う現地機関です。

ここで僕が担当した一番大きな仕事が地方債の繰上げ償還という財政再建策でした。全国の自治体と同様に管内の自治体も過去に上下水道、病院を建設する際、金融機関から地方債を発行するため多額の資金を借り入れていました。毎年少しずつ返済していたのですが、借り入れた当時の金利が高く、何億円という将来負担が残っていました。負担を軽減するにはいったん一括償還し、低金利で借り換えるなりま

覚えなければならぬのは正直大変。それでも県民、民間企業、他の自治体など様々な立場の方々と出会えるし、その方々との話し合いや折衝を繰り返しながら、行政として何らかの環境づくりやバックアップを講じることができるとおもしろいと思つています。場合によつては、新規事業の立ち上げや条例改正などの制度設計にも関わるし、県民ニーズの高い大きな政策も任される。そこに魅力を感じます。

特に印象深いのは、入庁4年目の配属先、飛騨振興局でのこと。ここは飛騨圏域内に

せん。それを行うには、経費節減策や将来にわたる収支計画を策定し、国の承認を得ることが必要でした。そこで、承認を得た後、上下水道や病院事業の現状を市村の担当者からきめ細かくヒアリング。何度も相談し、計画を練り直しました。

大きな政策だけにプレッシャーも大きかつたのですが、何とか計画が認められ、地方債の繰上げ償還を実現。それによつて何億円という将来負担を軽減できただけに、このときの達成感は今でも忘れられません。

### 目指す人たちへのアドバイス

多様化していく行政サービスを実現するためにも、他力本願ではなく、率先して動ける人に向いていると思います。また、行政はチームプレイ。自分の意見に固執せず、相手の思いも聞き出し、受け入れながら最適な策を見つけていくことが大事。協調性も求められる仕事です。

僕の今後の夢は、企業誘致の業務に携わること。地域産業の活性化は県の税収に確実につながるし、雇用の拡大にもつながります。こんなふうに様々な分野で働けて、いろいろな視点から社会を見つめ、貢献できる。それが公務員という仕事の醍醐味だと思います。

# 生活保護に興味を抱きケースワーカーに。正解のない仕事だからこそそのやりがい

取材・文／いのうえりえ 撮影／中岡邦夫

## 公務員になつた経緯

高校時代は薬剤師になりたかったのですが、数学と物理が苦手だったので浪人中に文系へ。そこで社会福祉学科を選んだのは、認知症の祖母を垣間見ていて漠然とですが、高齢者福祉を学んでみたいなと思ったからでした。

生活保護に興味を抱くようになったのは大学で公的扶助論を受けてからだと思います。教授が「生活保護法は柔軟な構造でできていて柔軟に対応できる法律だ」と話してくれたのが妙に心に残ったんです。また、学生時代、介護実習で特別養護老人ホームへ行ったり、ボランティアで障害者のお宅を訪問し、生活介助などを行いましたが、様々な福祉の現場を経験すればするほど、

本当に漠然とですが、私がやりたい仕事は、生活保護のような気がしました。

決定打になったのは大学3年のときに聞いた、大阪市社会福祉職OGの体験談です。あまりにいきいきと生活保護の職務を話されるのですかり感化され、その瞬間、決意しました。実際、生活保護の仕事に就くには公務員しか手段がなかったので、おずと道は決まりました。

## 駆け出しの頃の思い出

庭や傷病、障害者世帯です。母子家庭なら児童扶養手当を支給されるようにしたり、子どもを保育所で預かってもらい、母親が働ける環境づくりを支援したり。障害者世帯なら、年金で足りない分、生活保護の扶助を受けられるようにしたりしていました。

生活保護を受ける人といつても実に様々で、多様な価値観を持つおられます。それを実感したのはケースワーカーになつて間もない頃。母子家庭の方だったのですが、生活保護の援助を辞退されたんです。「生活保護を受けているのが世間に知れて、子どもがいじめに遭うのは嫌。何とか私が働いて自立しますので」と。泣きながら辞退届けに印を押される姿を見て私も泣きながら届けを受理しました。その女性は生活保護が必要な方だただけに、本当に複雑な気持ちでした。

## 現在の仕事内容

最初の5年間は、住吉区保健福祉センターにケースワーカーとして勤務。生活に困っている方に対し、困窮の程度に応じて必要な保護を行い、最低限の生活を保障するとともに、自立に向けて援助を行う業務に携わっていました。担当は約70～80世帯。主に母子家庭にいた経験が生かせるし、実情を踏まえた上で客観的に判断できる点がおもしろい

ですね。今度はこの本庁経験を現場で生かしてみたい。きっと以前とは違った相談援助ができるはず。それが楽しみです。

### 公務員のおもしろさ・つらさ

先ほども話したように、生活保護に対する人の価値観は本当に違います。「人として恥ずかしいこと」とどうえ、支給を拒む人もいれば、「御上のお世話をなってしまい、本当に申し訳ない」と挙られる人もいる。かと思えば、これは権利なんだと主張したり、生活保護に頼つてなかなか働こう

としない人もいる。そういう方には何とか働く気になってほしいと訪問の際、就職情報誌を何気なく持つていったりしたんですが、人の気持ちで簡単には変わらないものですね(笑)。いずれにしてもその人にとっての最低限度の生活を保障し、自立に向けて援助を目指すのが私たちの使命なのでですが、それぞの事情、価値観が異なるだけに難しい仕事だと痛感しています。

### 人間臭い仕事だからこそ楽しい

保健福祉センター時代のこと。母子家庭の母親が、内縁の夫がいることを私たちに黙つて2年間生活保護を受けていたことが発覚したことがありました。仕事だから感情的になつてはいけないと思いつつ、あまりに腹が立つて泣きながら怒つてしましました。彼女も泣いて詫びてくれ、その後、収入も増えて自立され、会わなくなりました。ところが1年経つた頃、彼女が突然訪ねてきてくれたんです。給与明細を見せてくれ、自立して楽しく働いていることを伝えてくれました。そのときは本当に嬉しかったです。

こんなふうに、生活保護を受けていた人が仕事を見つけ、収入も増えて自立してくれたら嬉しいのですが、一方で、本当にこれでよかつたのかなつて悩むことが多いです。

### 目指す人たちへのアドバイス

正直、私も公務員になる前は定時に帰れるものと思っていました。そんな日もありましたが、どちらかといえば、忙しいです。でも、いろいろな仕事ができるし、様々な人に巡り合える。変化に満ちた職場で働けるのが公務員の良さだと思いますよ。

自立にもいろいろな形があるので、もつといい方法、別のやり方があつたんじゃないかなといい考えでしまつわけです。本当に正解のない仕事です。でも、「こんなふうにあれ」これ考え続けることが私のやり甲斐につながつているのかもしれませんね。